

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170400523		
法人名	NPO法人 ウエルネットぎふ		
事業所名	ロングステイホームぬくもり		
所在地	岐阜県羽島市竹鼻町新町2504番地の1		
自己評価作成日	令和6年11月15日	評価結果市町村受理日	令和7年4月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;JiyosyoCd=2170400523-00&amp;PrefCd=21&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;JiyosyoCd=2170400523-00&amp;PrefCd=21&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 岐阜後見センター
所在地	岐阜県岐阜市平和通2丁目8番地7
訪問調査日	令和6年12月14日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

昨年末より、高齢の利用者が次々と他界、新しい利用者が春頃より入居され、その頃から平日の日中は併設のデイサービスと合同で過ごすようになりました。デイサービスの利用者との交流を通し、馴染みの関係ができています。毎日のレクなど、和気あいあいと楽しく過ごされています。また、夏場所前、相撲部屋力士の方が2名慰問に來られ、目の前で取り組みをして頂いたり、記念写真や相撲甚句を披露して頂き大変喜ばれました。夏は、苗を買いに行き、茄子とミニトマトを育て、毎日当番制で水やりを行ない「こうするといよいよ！」と利用者からアドバイスを頂き豊作でした。外出する機会も増えおり、近隣の寺への散歩や、美濃菊展に出掛けました。竹鼻まつりでは、屋台でおやつを選んで頂きました。毎月の作品作りも継続出来ており、季節の作品を利用者様と協力しながら作り上げています。その方の能力に合わせて作ることで、出来上がった時は毎回喜んで頂いています。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、外観から歴史的建造物の佇まいが感じられる造りであり、1階にはデイサービスセンターが併設されている。また、近隣には寺・神社があり、散歩コースになっている。ホームでは「人と人との触れ合い『ぬくもり』を大切に」という理念キーワードを掲げ、ニーズオリエンテッドな観点から、利用者の意向や思いに寄り添ったケア実践に努めている。例えば、利用者一人ひとりの意向や状況に応じた行事、活動機会を提供し、利用者はそこかしこで、思い思いの時間を過ごしたり、1階の併設デイサービスセンターの地域住民との交流を深めている。家族とのつながりについても大切にしており、毎月「ぬくもりお便り」を発行して、利用者の様子や健康状態を知らせるとともに、運営推進会議の際や毎年の家族アンケートの実施を通して、意見を把握し、利用者ケアの質の向上につなげている。職員の処遇についても、面談を通して、一人ひとりの希望や状況を把握し、ワークライフバランスに配慮した職場環境の整備に努めており、職員エンゲージメントの向上につながっている。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~42で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
43 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	50 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:8,9)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
44 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
45 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	52 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
46 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	53 職員は、生き活きと働けている (参考項目:10,11)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
47 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	54 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
48 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:20)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	55 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
49 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:18)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	”人と人との触れ合い【ぬくもり】を大切に” ”利用者の尊厳を守り、その人らしく生き生き暮らすことを支援する”を理念として、日々精進しています。理念は、玄関に掲示しており、意識づけしています。	会議の中で、理念に基づくワード「その人らしく、ご本人の望む生活」について話し合い、職員間で共通理解するとともに、介護計画に位置付けて、職員ワンチームで、理念の実践につなげるべく取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域との交流は、町内会の参加、祭りの協力、ごみの収集場所を提供したりしています。最近では、地域の方から介護のご相談を受けることが増えて来ています。	近隣住民と交流関係を築いており、住民が介護相談に来訪することもある。地域の祭り際には、休憩場所になり、利用者が祭りに参加している。また、利用者は、1階の併設デイサービスセンターの地域住民との交流を深めている。	ホームは地域住民に溶け込み、良い関係を築いている。これを進めて、地域の認知症介護の拠点施設として、地域の方が気軽に集い、相談できる場を日常的に提供し、広報する等、さらなる交流機会の拡充に向けた取り組みに期待したい。
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月ごとに運営推進会議を開催しており、6か月に1回はデイサービスとの合同会議を行っています。毎回、事前にアンケートでご意見を伺っており、参加できないご家族様の声を反映するようにしています。	運営推進会議は市担当者や区長、民生委員等の出席に加えて、薬剤師や学生等、多様な参加者を得て開催している。会議前には、アンケートで意見を伺い、会議で報告するとともに、ホームの運営状況を参加者にわかりやすく書面化して報告している。	
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当者の方とは、日頃から連携をとっており、介護保険の改正などの情報確認など相談もできる関係が構築できています。	市担当者には、運営推進会議の出席だけでなく、日頃から法改正、感染症対策、研修等について、メールや電話も活用し、双方向で連絡し合っており、相談や報告、確認等を行っている。	
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束等適正化検討委員会設置、3か月に1回会議で検討しています。現在該当者はいませんが、安全のために行うことが、知らずに拘束ということが分からないこともあり、毎年定期に研修を行っています。	平日の日中は玄関を開放しているが、土日や夜間は防犯や事故防止のため、施錠はしている。日頃の関わりについて、身体拘束ではなくとも、不適切ケアや身体拘束につながるような行為になっていないか研修を行うとともに、ケアの振り返りを行っている。	
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止推進委員会を設置、年2回会議を開催しています。不適切なケアも含め、マニュアルを作成、研修を行っています。虐待であるという行動がある際は、個別に指導を行っています。	不適切なケアを見つけた場合は、代表者や施設長が、職員個々に声かけし、確認と指導を行なっている。職員全体でも研修を行うとともに、会議で虐待防止について話し合う等して取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度について、研修を実施しています。今のところ必要性のある入居者様はおりません。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は、ご家族様と面談し、契約内容を説明しています。 必ず、質問がないか確認し、わからないことがあれば連絡頂くよう説明し、ご理解頂いています。		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設に来られないご家族様には、毎回運営推進会議の時にアンケートでお声を聞くようにしています。 また、面会や電話等でも困っていることはないか？意見を伺う機会を大切にしています。	運営推進会議前に、意見を聴取するために各家族に向けてアンケートを実施し、その意見を基に各種会議で検討する等の取り組みを行っている。また、独自のアンケートも毎年行うとともに、面会や電話の際には、家族の意見を聞く等して、ホームの運営に活かしている。	
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、グループホームの定例会議・全体会議・リーダー会議を開催し、現状の把握や職員からの意見を聞き、意見交換ができるようにしています。また参加できない職員もいる為、意見箱の設置、レポートの提出等で意見を出しやすい環境を整えています。	日頃の申し送りの際や勤務中に管理者やリーダー等は、相談や意見・提案を受けることも多い。会議前には、職員に事前に意見の聞き取りを行い、その意見について会議で検討して運営に反映させている。また、意見箱の設置やレポートの提出等の意見をくみ上げる仕組みもある。	
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	職員は、それぞれ希望や背景、立場が違うので、強い発言力に押されて我慢しないように、適宜個別の面談を行っています。 希望休や、体調不良、育児の早退など、お互い様で仕事をしているということを、意識してもらい、時短や扶養内等の希望をほとんど叶えています。	管理者は、職員の定期面談や随時面談を実施して、一人ひとりの勤務希望や、それぞれの事情を把握し、ワークライフバランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めており、職員エンゲージメントの向上につながっている。	
12	(10)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月、処遇改善研修を実施しており、なるべく現場の状況に応じたテーマを採用しています。 資格取得の為の支援も実施していますが、法人外の研修に参加したい職員が少なく、リーダークラスのスキルアップが課題となっています。	施設内研修について、研修計画を立てて、実施している。また、外部研修については、個々の職員の状況に応じ、認知症介護実践者研修等の受講を進めている。また、未資格者の資格取得も受講できるよう、勤務調整を行う等して、バックアップしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者の意識が低いため、中々交流が進んでいません。 今後は管理者やリーダークラスが地域の勉強会に積極的に参加し、施設のレベル向上へと繋げて行けるようにしたいと思います。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族のような関係を築けるように努め、談話をしながら、日常の家事(洗濯たみ・食器拭き)を寄り添いながら支援しています。		
<b>III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来る限りのことで叶えたいという気持ちで対応していますが、一人ひとりに向き合うことが難しいです。外食はまだ出来ませんが、希望に沿った麺類やちらし寿司等、手作り提供しています。	日々の生活場面で、ノンバーバルコミュニケーションを活用しながら、利用者の意向や要望を聞き取っている。未だコロナ禍の影響下にある中、制限的なところもあるが、理念に基づき、その人らしく生き生き暮らすことができるよう、喜び意欲が高まるように生活支援に努めている。	
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月の定例会議で、入居者様の状態の変化や問題となることを話し合い、全職員が共通認識としてサービス計画に反映するようにしています。	利用者や家族にケアの現状について報告するとともに、今後の意向を確認し、それを踏まえて、介護・看護職員を含めたチームで話し合い、介護計画の評価、見直しを行っている。	
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の個別記録を入力し、申し送りと業務日誌を活用して、全職員が情報の共有をしています。	職員間で引き継ぎを行う際には、タブレットや業務日誌を活用して申し送っている。利用者個々の介護計画に沿った支援を行えるよう、日々、ミーティングの際等には、指導を行い、職員の共通理解を図っている。	
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	何らかの理由により、不穏状態になったり、入居者様同士のトラブルがあった場合、1F デイサービスのフロアに降りたり、散歩をしたりと個別の対応を行っています。	同ホーム内に併設されているデイサービスの利用者との交流を通じて、生き生きと活動的な生活支援に努めている。また、移動販売車を依頼し、買い物を楽しんでもらっている。利用者が好きな物を選び、購入し、支払う等の一連の動作を大切にしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今年も地域の竹鼻まつりで、練り歩く山車を目の前で見学することができました。古いお祭りで、入居者様が懐かしんでおられました。屋台へ行き、買い物する姿はとても楽しそうでした。11月には、美濃菊展へ出かけ、ぬくもりで育てた菊を見に行きました。		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2回の訪問診療があり、常に主治医との連携が取れています。また診療以外でも必要時、連絡を取って、適切な医療が受けられています。	かかりつけ医は従前の主治医でも協力医でも自由に選ぶことができる。ホームの協力医とは、定期的な訪問診療に加えて緊急時の対応等、密な医療連携ができています。専門医院等、他科受診する場合は情報を提供し、家族同行を依頼しているが、職員も対応する場合もある。	
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	主治医が大変協力的で、必要時には入院も円滑に行えています。 看護師により、地域の羽島市民病院との連絡も密にとれる体制です。今年も新型コロナウイルスの入院も病院との連携が上手いき、全員ぬくもりに帰ってくることができました。	状態が変化した時には、早期に医療機関につながり、重症化しないよう支援している。入院時には利用者の情報、入院までの経緯等について医療機関に提供している。入院時は医療機関と連携しつつ、退院にあたっては、ホーム生活へのスムーズな移行に努めている。	
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に、重度化した場合の意向を確認しており、ご家族様の希望があれば、ぬくもりで看取りを行います。新型コロナで入院した101才の方も、酸素と点滴が必要でしたが、ご家族が看取りを希望され、現在は自分で食事ができるようになりました。	入居時の説明に加えて、重度化した際には、再度、医師や管理者から看取りの方針やホームでできることなどの説明を行い、利用者・家族の意向を確認し、意向に添った支援に努めている。看取り支援に際しては、家族と関わる時間を大切にしている。	
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを作成し、異常時や急変時には、看護師による的確な指示ができるように定期的に研修を行っています。		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	BCPを策定しており、地震・水害・感染対策マニュアルがあります。 毎月夜間想定火災避難訓練、消防署の指導による総合避難訓練を10月に実施しました。	夜間の災害時にどの職員も行動できるよう、毎月、夜間想定火災訓練を利用者と共にやっている。また、消防署の指導による総合避難訓練もやっている。地域のハザードを理解するとともに、備蓄品を備えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として、尊敬の気持ちを忘れることなく接しています。 子供扱いの言葉や、「～ちゃん」呼びを禁止し、その人の気持ちを尊重したうえで、その時々的心情に合わせた対応も行うよう心がけています。	接遇研修やマナー研修を行うとともに、日常的なケアの中での気づきについて、定例会議で課題に挙げ、話し合っている。羞恥心に配慮し、耳元で声かけをする、筆談で確認をする、同性介助を希望する方等の思いを尊重した支援に心がけている。	
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来る限りでの思いや希望に添えるように支援しています。		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れはありますが、状況・状態を把握し、どうしたら喜んで頂けるか・安心して頂けるかを考えて支援を行っています。		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	日々の食事には飽きて不満が出る方がいますが、毎月食べたいものを伺い、焼きそばやとんかつ等、提供しました。また、季節のフルーツや食材を使って工夫しています。食器は陶器や木製のトレイなどを使用し、自宅の食卓に近い形で提供しています。	食事提供について、副食はアウトソーシングだが、主食と汁物はホームで作って提供している。季節の果物やプランターで育てた野菜、ヨーグルト等をメニューに加えて提供することもある。また、毎月、利用者の食べたい物を聞き取り、メニューに加えたり、利用者と共にクッキングする等して、食事が楽しみなものになるよう努めている。	
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量は毎日記録し健康管理に努めています。水分量と排泄の回数や量をも確認しながら、無理のないように水分補給にも努めています。 便秘の方が多いので、もう少し工夫できないか考慮中です。		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時・毎食後の歯磨きを実施。口腔内の状況に合わせ、歯ブラシ・口腔スポンジ・口内洗浄液を個別で、変化に応じて対応しています。 今後は専門職による評価ができればと考えています。	嚙むことや口腔内を清潔に保つことが大切なことを理解し、起床時や毎食後には利用者の状況に合わせた口腔ケアを行っている。口腔内に異常が見られた場合は、家族に歯科受診を依頼している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排尿チェック表を使用し、排泄の間隔などを見て、個別での声掛けや排泄介助を行っています。評価することまでできていないので、個別ケアまで至っていませんが、尿意を訴えられる方でも、間隔が開いている時は、声掛けに配慮し介助を行っています。		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	安心・安全を第一に考えて介助しています。一般個浴に無理のないように2人介助も行っていきます。入りたくない方には、時間を空けるや別日に変更等も行っていきます。季節によっては入浴剤やアロマ、ゆずなどを使い、楽しみにして頂いています。		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	13時～14時をお昼寝の時間とし、1時間の休息を行っています。		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理は入居者様にとって必要不可欠なものであり、飲み忘れ・誤薬がないように、服薬チェック表での確認。2人での確認を行い、服薬しています。状態の変化により、不快なく服用できるように薬の形態も変えています。	薬剤師とは、気軽に相談でき、助言を得る等、連携が取れている。薬袋や点眼薬等、薬局でわかりやすいように名前印刷を行い、職員は服薬前にダブルチェックを行う等、誤薬が起きないように注意している。	
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	夕食後から就寝までの時まで自由な時間を過ごして頂きます。世間話や買い物話と会話で弾まれる方々や広告での物入れづくりや脳トレを行う方と自由な時間を尊重しています。	利用者一人ひとりの意向や状況に応じた活動機会が提供できており、利用者はそこかしこで、脳トレや編み物をしたり、新聞を広げたり、写経をしたりする等して、思い思いの時間を過ごしている。洗濯たたみや茶碗拭き等も利用者の日課となっている。	
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	なかなか行きたい場所への外出の支援はできていませんが、園芸が好きな人と花苗を買いに行ったり、花見や紅葉と人が密にならない場所へ出かけています。天気の良い日は、近隣のお寺にお散歩に出掛けています。	感染症の状況に注意しながら外出支援を行っている。藤や桜、イチヨウ等を見に行ったり、プランターで育てる苗を利用者と買いに行ったりする等して、季節を感じてもらっている。地域の祭りでは、ホーム前が山車の進路になっているので、ベンチを設置し、観覧している。	今後とも、利用者の行きたい場所や外出支援の充実に向けた取り組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設内での金銭の所持は紛失などの懸念があるので禁止しています。喫茶店や買い物に同行し、金銭感覚の保持につ努めることができればと思います。10月から移動スーパーが始まり、買い物を楽しみにされています。		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様が自ら電話をしたり手紙のやり取りをする際は、家族様の了解を得てからにしています。		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設の構造上、洗面所や厨房から入居者様の状況が分からないので、夜間は特に不安な面があります。共有の壁には、入居者様の作品が掲示してあります。	共用空間は広く明るく、落ち着いた環境である。温度や湿度の調整も行き届いている。トイレの場所が居室から少し離れているので、夜間は居室にポータブルトイレを設置し、利用者が安全に排泄動作ができるよう、配慮している。リビングには利用者と一緒に作成した四季折々の作品や習字等が飾っており、季節が感じ取れる。	
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	平日の日中は、デイサービスのフロアで過ごします。曜日で利用者が変わり、おしゃべりも気分転換になっています。時折、デイの静養室や、テレビの前などその方の希望によって居場所が変わり、以前より気分転換が出来るようになっていきます。		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の広さをご家族様が面会に来られても十分な広さがあります。テーブルや家具を持ち込み、思い思いの配置で過ごしておられます。また、ご家族様からの贈り物や、ご自身で作られた作品を飾って楽しまれています。		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内においては、居室の名前などの目印や張り紙などで誘導の工夫をしています。		